

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 第5号 —

平成21年7月5日発行

発行 草加市立病院

編集 経営管理課

〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号

☎ 048 (946) 2200(代)

ホームページ [草加市立病院](http://www.soka-city-hospital.jp) 検索

<http://www.soka-city-hospital.jp>

高元俊彦病院長

「新医療センター」の実現に向けて語る

昨年10月、脳出血を起こした東京都内の妊婦さんが7つの病院に受け入れを断られました。最終的に三次医療機関の都立病院が受け入れ、子どもは助かりましたが、母親は亡くなりました。母親と子どもの2つの命を救うためには、産婦人科と脳神経外科がお互いにすばやい連携を取り合わなければならない極めて困難な事例でしたが、このことにより私たちの身近にもある深刻な医療危機の実態が浮き彫りとなりました。

このような事態を受け、平成21年2月に開催された市議会定例会において、木下市長は草加市における救急医療の一層の充実を目指すという施政方針をかげましたが、その具体的な展望に関心が集まっています。今回は議会答弁を行った高元俊彦病院長が考える「救急医療に関わる市立病院の将来のビジョン」についてお伝えします。

「新医療センター」が 目指すもの

国民の三大死因である、がん、心臓病（心筋梗塞や心不全）、脳卒中。これらの重篤な病気にかかる人はストレス、糖尿病や生活習慣病などが原因で年々増加していますが、特に心臓病や脳卒中の治療は多くの場合、一分一秒を争う緊急の処置が必要です。市立病院ではこれらの病気に今まで以上に迅速に対応できる施設を整備するため、病院敷地内に新医療センター（仮称）脳・心臓血管センターを設置する計画を検討しています。

施設整備で さらなる発展を

市立病院が新築されて5年が経過しました。一時は産婦人科



高元俊彦病院長



緊急対応も多い心臓カテーテル検査

救急医療に特化した 複合施設

新しい施設は現在のところ、多面的な機能を持つ救急医療に特化した複合施設として検討を進めています。まずその1つとして、1階には小児時間外休日救急診療所を設置する予定です。ここでは地元医師会の先生方のご協力により、午後10時頃まで

市立病院では新型インフルエンザ対策として、感染の疑いがある人を診療するエアータント（下写真）を病院東側駐車場スペースの一角に設置しています。

新型インフルエンザ対策 エアータント を設置



外来診療で来院した患者さんや院内への感染を防止する役割を果たすものですが、今後はより快適な陰圧室を備えたプレハブ施設の設置を検討しています。

重症患者専用のスペースで 迅速な治療を

「新医療センター」はいわば「重症疾患の救急センター」です。

救急隊からの連絡が入り次第、担当医師が救急隊員と緊密な連絡を取り合い、患者さんの症状を判断し、狭心症や心筋梗塞、また脳梗塞や脳出血などの一刻を争う疾患に対応します。検査や処置が最短の時間で実施されるよう十分なスタッフを配置し、血管撮影装置や人工呼吸器、ガス分析器など高度な検査機器が配置された専用の治療室を整備する予定です。

現在の病院施設にも6床のICU（集中治療室）が設置されていますが、今後も増加する心筋梗塞や脳卒中などの疾患に迅速に対応する施設として十分とは言えません。専門スタッフのもとで先進的な治療を提供できる専用スペースの整備が必要であると考えています。

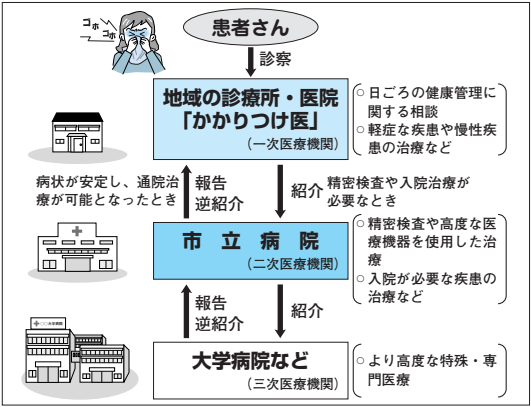
このような施設の設置により、患者さんの救命に大きく貢献することが期待されます。



2004 ～ 2009 5年間のあゆみ

－市立病院は新築移転から5年を迎えます－

当院は、平成16年7月に病床数366床、18診療科を有する二次医療機関として開院しました。開院当初は全国的な医師不足の影響を受け、産科が休止するなど厳しい状況に直面しましたが、医療スタッフの確保に努めた結果、平成19年10月に産科を再開。さらに救急診療科の新設、草加八潮医師会所属医師による小児時間外救急診療を開始するなど、市民の皆さんに信頼される病院を目指して発展を続けています。



かかりつけ医と病院による協力体制

市立病院では市民の皆さんに医療機関ごとの役割に応じた受診をおすすめしています。医療機関を上手にご利用いただくために、「かかりつけ医」等の地域医療機関の情報提供も行っていますので、その際は地域医療連携室をお気軽にご利用ください。

地域医療連携室では、かかりつけ医から事前に患者さんを紹介いただいた場合に、スムーズに市立病院で患者さんを受け入れられるよう、院内の各診療科に診療予約などの連絡調整を行っています。また、当院の診療体制を地域医療機関にご理解いただくための情報提供も行っており、地域医療機関との橋渡し役を担う部署とも言えます。

病気で地域のかかりつけ医にかかった場合に、病状によっては入院や手術などによる専門的な治療ができる病院を紹介されることがあります。また、逆に病院での専門的な治療が終了し、症状が安定した場合には地域のかかりつけ医を紹介されることもあります。このようにかかりつけ医と病院が役割分担し、協力することで患者さんへ適切な医療を提供することができま

2004. 7
(平成16年7月)

地域医療連携室 設置



6月に行われたあじさいコンサート

現在、ボランティア「クローバー」のまとめ役となっている西尾正道さんは、「これからも患者さんやご家族に安心感や元気を与えられるよう、笑顔で優しく接していきたいです」と話しています。

新病院が開院して以来、ボランティアの皆さんに患者さんの案内や介助、院内の飾り付け、読み聞かせ、コンサートの開催などの活動をしていただいています。そして、ボランティアの皆さんの温かい気持ちや奉仕活動は患者さんから大変好評をいただいています。

特に、多くのボランティアの皆さんが参加する季節ごとのコンサートは、いまや恒例イベントとして地域に定着しています。回を重ねるごとに来場者は増加。ピアノなどによる生演奏に合わせて歌を一緒に歌う姿も見られ、患者さんからは、「すばらしい演奏で心を癒されただけでなく、たくさんの元気をいただきました」という声も。

2004. 7
(平成16年7月)

院内ボランティア 発足



消化器科でのカンファレンス

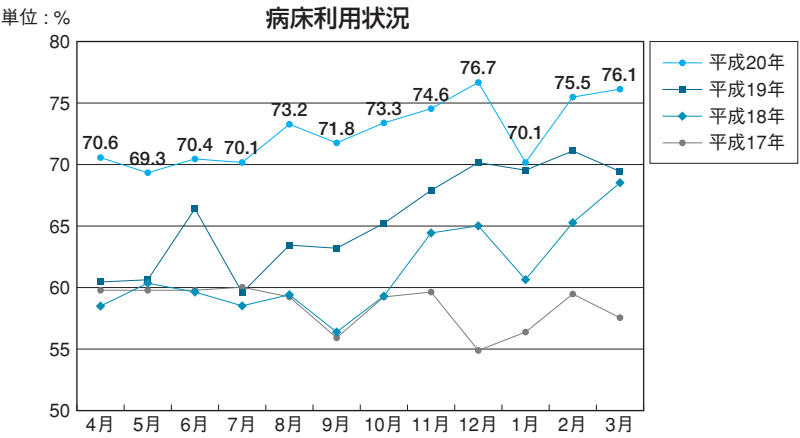
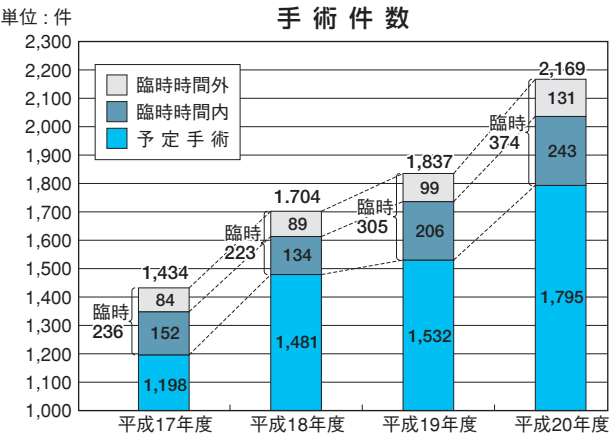
診療部長の矢内常人医師は「病院として研修医を受け入れるということには、若い労働力を得るという以上の意味があります。研修医を教育し指導することが、指導医のレベルアップにつながり、さらに病院全体の医療の質の向上につながるからです」と話しています。

専門的な知識だけでなく、一般的な外傷や疾病に対する基本的な診療能力を持つ医師を育てるために、平成16年度から新医師臨床研修制度が始まりました。当院も国から臨床研修病院の指定を受け、これまで東京医科歯科大学をはじめ全国から優秀な研修医を受け入れてきました。

基本的な研修内容は、厚生労働省のガイドラインによって定められており、現在の必修科目として内科、外科、救急(麻酔)、小児科、産婦人科などが挙げられます。その中で経験すべき症状や病態も細かく決められ、各臨床研修病院が独自に研修プログラムを組んでいます。当院では指導医だけでなく病院全体で、患者さん思いで臨床能力の高い医師の育成に取り組んでいます。

2004
(平成16年)

臨床研修医の 受け入れ開始



病院統計

※平成17～19年度は決算数値、20年度は決算見込み数値。
医師・看護師・助産師数は4月1日現在の常勤職員数（医師数は研修医を除く）。



毎月約50名の赤ちゃんが産声をあげています

2007. 10
(平成19年10月)

産科再開

平成19年10月、安水洗彦医師をはじめとする産婦人科医師5名の就任により産科が再開しました。

過酷な勤務により全国的に産婦人科医師が減少し、産科の廃止・休止が相次ぐ中、休止した産科を再開するという当院の事例は、極めてまれなケースとして新聞等で報道されました。

安水医師は「産科再開後の診療は予想以上に順調で、分娩予約枠も当初の月30名から現在（平成21年10月からの分娩予約枠）は月55名にまで拡大し、草加市民以外の方の分娩もお受けできるようになっています。また、産科以外にもがん治療や腹腔鏡手術などで多くの方のご利用を頂いています。まだ医師・助産師・看護師とも充足はしておりませんので、行き届かない点も多々あることと存じますが、今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます」と話しています。

2007. 11
(平成19年11月)

救急診療科設置

平成19年11月に救急診療科を設置し、より多くの救急患者さんに対応できるような体制を整えてきました。

救急診療科では、重症かつ緊急度の高い患者さんに対して、検査と初期治療を同時に行い、診断が確定すればその疾患に応じて各診療科に専門的な治療を依頼しています（ER方式）。また、心臓や呼吸が停止した患者さんの蘇生処置、病院内外の医療関係者への蘇生方法の教育なども行っています。

当院では、救急診療科の医師だけでなく、医師や看護師を含め薬剤師、臨床検査技師、放射線技師も当直体制を取り、24時間365日救急患者さんに対応しています。平成20年度の救急車搬送件数は4230件、通常の診療時間帯の救急外来受診者数は6816人、時間外の救急外来受診者数は14621人でした。

先月からは新たに1名医師が増員され、さらに体制が強化されました。病院スタッフが丸となつて、迅速で的確な治療に努めています。



中央は6月に救急診療科に着任した西川幸宏医師

2009. 4
(平成21年4月)

草加八潮医師会
所属医師が
小児科の
救急診療に協力

市立病院は二次救急医療機関として、入院治療や手術を必要とする重症な患者さんに対して救急診療を行っています。

小児科においては通常の診療時間以外に1名の医師が交代で救急診療に当たってきました。

しかし、草加八潮地区周辺の病院に勤務する小児科医師の減少により、市立病院に救急の患者さんが集中し、医師の負担が大きくなるなど、診療体制の維持に支障をきたしていました。

そこで、小児科診療の充実や小児科医師の負担軽減を目指し、平成21年4月から草加八潮医師会の協力を得て、同医師会に所属する医師が週1〜2回、午後7時30分から10時30分まで、当院小児科医師に代わって救急診療を行っています。

同医師会副会長で小児科医の佐藤達也医師は「自分もかつては小児科の勤務医であり、救急医療の過酷さは理解しています。当地区の診療体制の維持に少しでもお役に立てればありがたいです」と話しています。



佐藤達也医師による診察

2009. 4
(平成21年4月)

外来化学療法室
設置

これまで、当院での抗がん剤によるがん治療はほとんどの場合、入院によるものでしたが、病状が安定してきた患者さんについては、外来に通院しながらの治療が可能になりました。

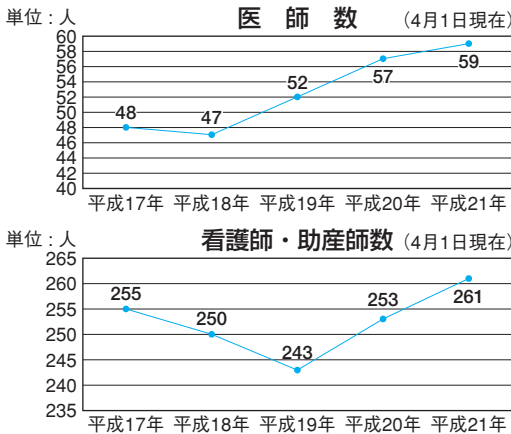
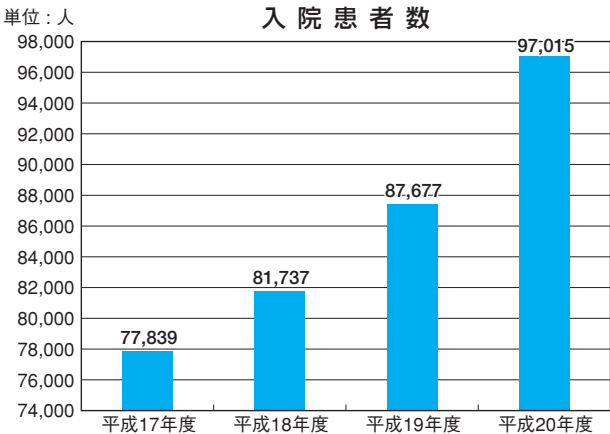
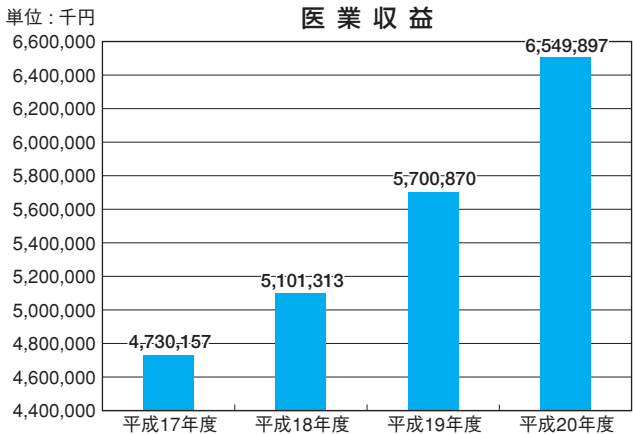
今年4月、当院2階に外来化学療法室を開設し、ベッド4床、リクライニングシート4床、合計8床を設置。静かな落ち着いた環境で治療を受けていただくことができます。

担当医師の指示のもと、薬剤部において化学療法専任の薬剤師が薬の調合を行い、専任看護師と確認したうえで治療を開始します。治療中は、看護師が患者さんの観察や副作用のチェックを行うなど安全面に十分配慮しています。さらに患者さんの不安を和らげるため、お話を聞いて相談を受けるなど、きめ細かな対応を心がけています。

外来化学療法で患者さんが安心して治療を受けていただけるよう、医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフが協働し、安全な医療の提供に努めています。



患者さんの体調を細かく観察します



7月6日(月)～11日(土) —見て聴いて学んで、ともに歩もう—

いきいきフェア

会場：草加市立病院



7月9日(木) 午後2時～4時 会場:3階講堂 市民公開講座

「女性の健康について考えてみましょう」
—健康面での男女の差と女性がんについて—
講師 安水洸彦医師(副院長・産婦人科)



「新型インフルエンザから身を守ろう」
講師 土屋史郎医師(副院長・小児科)

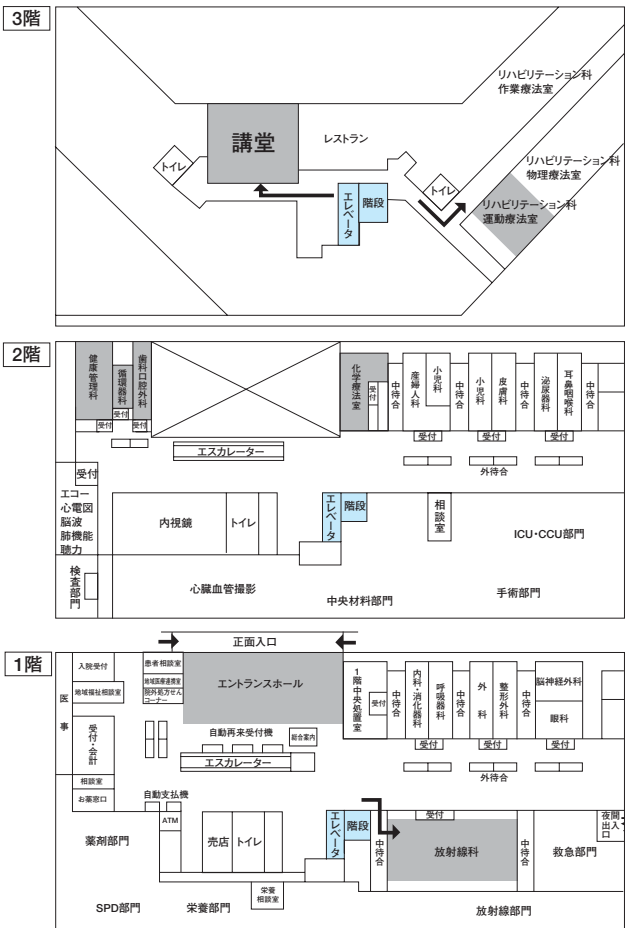


7月11日(土) 午前10時～正午 AED講習会 会場:3階講堂

※申し込み制です。
参加を希望する方は
7月10日(金)までに
市立病院経営管理課へ。



市立病院案内図(1階～3階)



●イベントが盛りだくさん！

日 時	内 容	会 場
7月6日(月)～11日(土) 午前8時30分～午後5時	パネル展示	
7月11日(土) 午前10時～正午	合唱(出演:ボランティアクローバー) バルーンアート 看護職員によるミニライブ	1階 エントランスホール
7月11日(土) 午前10時～午後1時	マンモグラフィーとは? 乳腺撮影疑似体験 内科系医師による健康相談 メタボリック測定 血液さらさら測定 ベビーマッサージ 食事に関して一緒に考えましょう くすり相談 リンパマッサージ 転倒予防教室	1階 放射線科 2階 循環器科 2階 健康管理科 2階 歯科口腔外科前 2階 化学療法室 3階 リハビリテーション科 運動療法室

7月11日(土) 午後1時30分～3時 会場:1階エントランスホール 地域医療を考えるシンポジウム

「みんなで地域医療を支える」

- 基 調 講 演 NPO法人地域医療を育てる会
理事長 藤本晴枝さん
- パネルディスカッション 藤本晴枝さん、木下博信(市長)
高元俊彦(病院長)



藤本晴枝さん

【地域医療を育てる会】

千葉県東金市を中心に活動するNPO法人。地域医療を守ろうと、住民、行政、医療、さらには福祉や保健など様々な立場の人たちがお互いに知恵と力を出し合う場として設立。「対話する地域医療」を育てようと活動しています。